

宮崎大学・日本語教育能力検定試験対策講座(無料)のお知らせ

毎週火曜午後6時よりカーリーノ8階(ガガエイト)にて行われている日本語教育能力検定試験対策講座が始まって約1年が経過しました。本講座は2年で完結するカリキュラムですが、本年度、一年目にもかかわらず3名が受験し、2名が合格しました(ちなみに全国平均は約18%です)。以前、朝日新聞でも紹介されましたが(以下に記載しておきます)、受講生の真剣な態度が結果に結びついたのでと思います。

この講座は、日本語教師を育成することによって、宮崎の国際化に貢献しようという目的で開講されました。今後は宮崎においても国際化・異文化理解がますます重要になってきますが、真の国際化には異文化を理解するだけでなく、異文化話者を受け入れる環境づくりが必要になります。その環境づくりに必要なのがコミュニケーションの手段である日本語の専門家・日本語教師なのです。

本講座の受講資格は何もありません。年齢制限もありません(高校生でも結構です)。ただし、日本語教育を学びたいという強い気持ちが必要です。受講を希望される方は以下のところにメールにてご連絡ください。

教育文化学部 早野慎吾(国語学)研究室

e-mail s-hayano@cc.miyazaki-u.ac.jp tel 0985-58-7437

宮崎大日本語講座(宮崎市)



宮崎市中心部のカーリーノ8階にある「ガガエイト」の小さな学習室に、毎週火曜日の午後6時、学生たちが集まっています。外国人らに日本語を教える「日本語教育能力検定試験」合格を目指す



教えるのは宮崎大教育文化学部の早野慎吾助教授(国語学)。10人ほどの受講生は宮崎大のほか、宮崎公立大の学生や社会人もいる。学生の専攻も国語学や教育学だけでなく、文系全般にわたる。2年間で合格が目標という。

卒業単位には関係のない授業にもかかわらず、学生たちの目は真剣そのものだ。宮崎市橋通東4丁目のガガエイトで

基礎や成り立ち 理解へ活気

「留学生をサポートする仕事したい」という公立大嘱託職員山田美鈴さんは、試験合格を目指して専門学校に通った経験もある。 「専門学校は広いけど浅い勉強しかできない。ここでは分からないことはさっくばらんに聞けるし、学生たちもとてもまじめに勉強している。より深く学ぶことができ

理解しなければならぬ。様々な漢字がどのように生まれたかを早野助教授が説明すると、受講生からは次々と質問が出てくる。 郊外にキャンパスがある宮崎大生にとっては、中心部まで講座を受けるに來るのは、実は結構な負担になる。それでも早野助教授は現在の場所での授業にこだわった。 他大生や社会人にも門戸を広げ、「日本語をきちんと教えられる教師がいれば、宮崎の国際化、発展に役立つはず。多くの人に試験にチャレンジしてもらいたい」という強い思いがあつたからだ。

朝日新聞 2005.1.29(この記事は朝日新聞社に無断で転載を禁ずる)